

宝塚市地域公共交通協議会 議事録 (要旨)

開 催 平成 28 年 6 月 8 日水曜日 10 時より
場 所 宝塚市役所 3 階 3-3 会議室
議 事 (1)-1 月見山・長寿ガ丘地区運行報告について
(1)-2 月見山・長寿ガ丘地区国庫補助に係る計画変更について
(2) 仁川・売布地区 運行報告について

出席委員 15 名 (以下敬称略)

(会長) 学識経験者 喜多 秀行 (神戸大学大学院 工学研究科教授)
交通事業者 野津 俊明 (阪急バス株式会社 自動車事業部長)
交通事業者 山田 眞二 (阪急田園バス株式会社 取締役自動車事業部長)
交通事業者 野口 一行 (阪神バス株式会社 業務部長)
交通事業者 甲斐 尚道 (阪急タクシー株式会社 取締役営業部長)
交通事業者 中澤 秀明 (公益社団法人兵庫県バス協会 専務理事)
交通事業者 五十嵐一俊 (一般社団法人兵庫県タクシー協会 理事)
国土交通省 吉本 道明 (神戸運輸監理部兵庫陸運部首席運輸企画専門官)
公安委員会 原 信也 (兵庫県宝塚警察署交通課長)代理 西川多華夫(規制係長)
道路管理者 岩崎日出夫 (兵庫県宝塚土木事務所所長)代理 大原成幸(所長補佐)
道路管理者 尾崎 和之 (宝塚市都市安全部長)
自治体 荒谷 一平 (宝塚市技監)
自治体 福永 孝雄 (宝塚市企画経営部長)
市民 上坂 和子
市民 岩室 達美

欠席委員 1 名

市民 岸 恭子

オブザーバー 4 名

野田 年洋 (神姫バス株式会社 三田営業所所長)
酒巻 幸紀 (兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 阪神地域協議会宝塚
ブロック議長)
岩原 直子 (兵庫県交通政策課副課長兼地域交通班長)
酒巻 由香 (市民)代理 青木賢一

事務局

金岡 厚 (宝塚市都市安全部建設室長)
中村 修 (宝塚市道路政策課長)
河本 卓也 (宝塚市道路政策課係長)
安井 悠喜 (宝塚市道路政策課係員)

■開会（会議の成立等）

- 委員 16 名の内 15 名の出席。協議会規約第 7 条に基づく過半数の出席要件を満たすため、会議成立。
- 会議については、公開とする。
- 傍聴人 2 名。

■会長挨拶

- 地域公共交通協議会（以下協議会）と地域公共交通会議（以下地交会議）を続けて開催する。協議会は地域の公共交通について、より良いものを模索していくもの、地交会議は利害の調整を行う場として、しこりのないよう、過度にならないよう存分に意見を出す場と考えている。本日は良い会議になるようよろしくお願いいたします。

■議事

(1)-1 月見山・長寿ガ地区の運行報告について

①議事説明

事務局：・平成 27 年 8 月 24 日から本格運行を開始。

- ・3 月までは 170 人台後半/日から 190 人台前半/日で推移。
- ・4 月は微増。初めて 200 人/日を突破。
- ・さらなる利用者増の取り組みを検討していく必要がある。
- ・当地区は 1 カ月に一度、地元、事業者、市において利用者の増に向けた協議を実施。主な意見は以下のとおり。

- ・ランランバスのキャラクターのネーミングによるマイバスの意識向上
- ・地域の夏祭りなどのイベントへの参加
- ・ランランバスを守る会、自治会等の役員以外への広報活動

②質疑

質問 1：既存路線の利用客減の懸念について

- 当該路線の利用客増に向けた取り組みが、既存事業者の利用客減につながる懸念。

回答等 1：

- 本地区は坂で不便な地域に、交通手段の選択方法を増やすものである。既存公共交通の利用者をバスに転換させるものではなく、自家用車の利用者、特に高齢で車の運転が困難になってきた方を公共交通に転換させるよう意識転換をしていく。

質問 2：利用報告について

- ①現金・回数券・定期券の別、②上り下りの別、③障がい者の利用状況等が知りたい。

回答等 2：

- ①運行開始から総数で、長寿ガ丘：現金 13837 人、回数券 11765 人、定期券 1087 人。
月見山：現金 12352 人、回数券 12239 人、定期券 550 人。
- ②4 月の長寿ガ丘系統、宝塚駅での 駅発（上り）約 2000 人、駅着（下り）約 1000 人。
- ③は割引もなく今回新規割引を検討しているところであり、数を把握できていない。

③結果

- 1) 各交通事業者が win-win になることを目標とし、各事業者が共存し持続可能な仕組み作りが必要であることを共有した。また、各者が違う土俵の中イメージで協議している恐れがあったため、次回は共有したい情報が分かるものを各者提供することとする。
- 2) 次回は利用状況の具体が分かるよう資料を改善する。

(1)・2 月見山・長寿ガ地区国庫補助に係る計画変更について

①議事説明

事務局：・当地区は、駅からの距離は 1km 以内であるものの、高低差が 100m ある。

- ・これにより国から交通不便地域の指定を受け、運行補助と車両の減価償却について地域内フィーダー系統確保維持歩国庫補助金を受けている。
- ・平成 29 年度も継続して補助を受けるために計画を変更する。

主な変更点は

- ・利用状況の継続的な測定手法をアンケート方式から事業者による測定に変更。
- ・補助額の算定結果を更新。ただし、算出過程は事業者の業務実績を含むため、事務局に一任とする。

②質疑

質問は特になし

意見：交通事業者に対する国庫補助について

- 国庫補助額は漸減傾向である。公共交通補助の総額は道路整備額等と比べると大きな開きがある。国土交通省にあたっては、公共交通補助の総額を増やす努力をいただきたい。

③結果

- 計画変更について承認する。なお、補助申請は事務局に一任とする。

(2) 仁川・売布地区 運行報告について

①議事説明

事務局：・仁川地区には高丸系統、仁川台系統の 2 系統が、

売布地区には売布きよしガ丘系統、泉ガ丘系統の 2 系統がそれぞれ運行中。

- ・ここ数年、利用客は微増を続けていたが、今年度 4 系統中、3 系統の利用客が減に転じたことから、地元、事業者、市で話し合いの場をより密に持ち、利用者増を図るための方策を纏めていく予定。

②質疑

質問：利用客減の要因について

- 要因は把握できているか。

回答：

- 把握できていない。地域に入り、把握したいと考えている。

③結果

- 利用客減の要因について、変動誤差の範囲なのか、要因があるのか、把握すること。
- 報告資料については次回、上り・下りの別、現金・定期券の別等、資料を改善すること。

以上